

## 議事要旨(1) IASBにおけるリース・プロジェクトの検討状況

冒頭、小賀坂副委員長（専門委員長）より、IASB/FASBにおけるリース・プロジェクトの検討状況について説明があり、これに続き神谷シニア・プロジェクト・マネージャーより、説明資料〔審議事項(1)〕に基づき、2014年1月のIASB/FASBの共同審議における貸手及び借手の会計モデル並びに借手の少額リースの代替的なアプローチ案に関する議論の内容についての詳細な説明がなされた。

説明された内容に対する委員からの主な意見及び質問と、それに対する事務局からの主な回答は次のとおりである。

- ある委員より、コスト便益という観点からは、少額リースの範囲を拡大するのが望ましいと考えており、少額リースの範囲の拡大について引き続き主張していくことが必要であると考えているとの意見が述べられた。
- ある委員より、2013年のリースの改訂公開草案の借手の会計処理の提案についてASBJよりコスト便益の観点からの検討を要望するコメントを提出したにもかかわらず、IASB/FASBによる対応がほとんどされていないという印象があり、特に少額リースを具体的に定義しないとコスト便益の観点から問題が解決されないと考えられるとの意見が述べられた。また、同委員より、リースのガイダンスをポートフォリオ・レベルで適用することを容認するアプローチについては、実務上、リース取引は多様であるため実際の会計処理の事務負担の緩和にはほとんど効果がないだろうと思われるとの意見が述べられた。
- 同委員より、借手の会計処理モデルのアプローチ3（現行のUS GAAP及びIFRSと一貫したリースの分類方法を用いた2本建てのアプローチ）は、現行の実務に定着しているリースの分類方法を用いることからコスト便益に配慮はされている点に一定の評価はできると考えられるものの、それよりもむしろ現行のオペレーティング・リースについて開示の改善で対応するほうがコスト便益の観点からは望ましいのではないかと意見が述べられた。
- ある委員より、IFRSとUS GAAPにおいてリースの会計基準のコンバージェンスがなされない場合、リースの会計基準を改訂するのが適切であるのかという点についてさらに疑問が深まるという印象を持つとの意見が述べられた。さらに、同委員より、IASB/FASBがリース・プロジェクトの再審議において短期間で重要な問題についての方向性を決める予定であることについてデュー・プロセスの観点から懸念を有しており、特に会計モデル及び少額リースへの対応が十分であるかなどについて関係者の意見を聞く必要があると考えられることから再度公開草案を公表する必要性が高

いことを主張するのを検討してほしいとの意見が述べられた。

これに対し事務局からは、IASB/FASB のリース・プロジェクトの進め方について検討の上、意見発信をすることについて考えたいとの回答がなされた。

- ある委員より、借手の少額リースについての重要性に関する具体的な数値基準を示すか、それができないのであれば、コスト便益や比較可能性の観点からは何らかの代替案が必要であると考えているとの意見が述べられた。

これに対し事務局より、借手の少額リースについての重要性に関する具体的な数値基準を設けることは、IFRS のような国際的な会計基準では困難であることは理解できる一方、リースの会計基準においてはそのようなものが関係者の賛同を得るために必要であるかもしれない、との回答がなされた。

最後に事務局より、2014 年 1 月の IASB/FASB の共同会議に提出された代替的なアプローチ案に対する関係者の反応も考慮しながら、日本からの意見として ASBJ がどのようなことを主張できるかについて引き続き検討していきたいとの旨の説明がなされた。

以 上